

創立者 柴田徳次郎とは

国士館の創立者柴田徳次郎とは、どのような人物だったのでしょうか？
また、彼が目指した学校教育についてもみていきましょう。

①生涯 — 若き日の理想を追い求める

柴田徳次郎は、福岡県出身（1890－1973）。若くして上京し、苦学の後、早稲田大学専門部に入学しました。学生となった柴田は、日本の世の中をより良くしようとする仲間たちと共に、心から国をおもふ青年を育てたいとして、1917(大正6)年、国士館を創立します。柴田は、学生でありながら、自分が理想とする教育の実現を目指し、弱冠26歳の若さで夢を実現しました。これは、多くの私立大学の創立者が有名になった後に学校をつくったことからすると、たいへん珍しいことといえましょう。



若き日の創立者柴田徳次郎

②教育方針—心とともに身体をきたえる

柴田は次のような言葉をのこしています。「人間はいつ、どこへほうり出されても、一人だちできる人間にならねばならない」と。そこで国士館では、学問を深めるとともに、心と身体をきたえるため武道に力を注いできました。国士館で培った強い精神力と身体は、社会に出てから活かすことができると考えたのです。創立者を讃え、毎年祥月命日の1月26日には、世田谷キャンパス内の墓所で法要が行われます。また、大講堂前には、創立者銅像が1977(昭和52)年に建立され、現在でも、国士館精神を受け継ぐ学生たちを見守っているのです。



大講堂前に立つ柴田徳次郎銅像